

男女共同参画情報紙

2003. 6. 1

3号



いいきき羽生。夢みる羽生。

みらい

ひとひと
女と男 ともに輝く社会をめざして

特集

ささえあう介護

はぐくもう

一人ひとりに きらめく いのち
のびのびと 健やかに

たかめよう

一人ひとりに そなわる ちから
認めあい いきいきと

つなげよう

一人ひとりが 寄せあう ところ
ほほえみと 思いやりで

ひろげよう

みんなが 暮らす みどりのさいたま
ゆとりと うるおいで

すべては 自分の 一歩から

身近な人との ふれあいから

世代をこえ 地域をむすび

つくっていこう

世界へひらく 彩の国

彩の国さいたま福祉憲章より



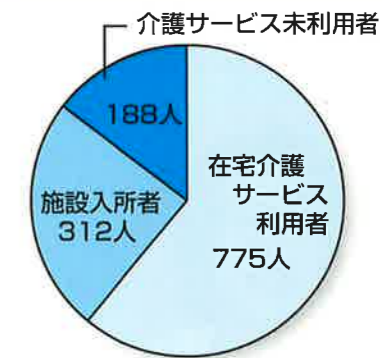
日本人の平均寿命は男性78.07歳、女性84.93歳と年々更新を続け、今では男女ともに世界のトップです。いつまでも健康で自立した暮らしをしたいと誰もが思っていますが、突然「介護」を必要とする立場に直面することも考えられます。

私たちをとりまく社会情勢は、高齢者だけの世帯と働く女性の増加により、「介護は女性」という固定的な役割意識では対応できなくなっているのが現実です。これからの介護はだれがどう担っていったらいいのでしょうか。



羽生市の65歳以上の人口は10,627人(平成15年1月1日現在)で、全人口の18.32%を占め、県内各市の中で、秩父市について2番目に高い高齢化率になっています。また、平成12年から介護保険制度が実施されましたが、現在1,275人の方が介護保険の認定を受けています。

羽生市介護保険認定者利用状況



今日学校で老人ホームに行ってきたよ。歌を歌ったり、いろんな話を聞いてきたの。

ねえ、老人になるとみんな施設に入るの？

そんなことはないわ。からだが不自由になっても、家で暮らしているお年寄りたくさんいるわよ。

まだまだ私は元気だから、介護の話は先のことだ。

介護について、前もって話しあうことはとても大切です。本人の希望や介護者の話をきちんと聞き、介護に関する資料・情報を検討し、お互いに心の準備をしておきたいものです。

そうだな。よし、この際おじいちゃんのお気持ちをじっくり聞いておこう。

私の気持ちといたって、そりゃあねできれば皆と家にいたいよ。しかし、痴呆になったり、体がきかなくなったら、みんなに迷惑かけられないしなあ…

私がおじいちゃんのお面倒みるよ。女の子だもの。

そうだな。その時はママに仕事を辞めてもらって、みらいと二人でやっからおう！

あら!! 介護って女がすると決まってるの？ パパもみらいもそう思っているの？

男にはできないよ。ドラマやCMでも、介護の場面はみんな嫁さんがやってるよ。

それに、老人ホームで働いている人は、ほとんど女の人だったよ。

厚生省の調査によると、介護者の84%が女性です。その多くが「私一人でやらなければならない」という孤独感と「いつまで続くのだろうか」という不安感を抱いています。本当に介護は女性の役割なのでしょうか。介護が必要になった場合、女性が勤めを辞めることが、一番いい方法なのでしょうか。

ねえ、おじいちゃんは何に聞いてもらいたいの？

私の口から「だれに」って言えないよ。

「介護は女の仕事」というイメージを、昔ほどではないにしても、多くの人が固定的な役割意識としてもっています。どうしてそんなイメージが残っているのでしょうか。

1. 女より男のほうが優位にいるという性差別
2. 男は職場へ女は家へという考え
3. 食事や排泄の世話は女が適任という考え
4. 「嫁」を家族の下に位置づけてきた制度のなごり

長い歴史の中で、人々に染みついてしまった意識が大きな原因です。

ほーら、ごらんなさい。もともと女が介護をするって決まっているわけじゃないでしょ!!

俺ってフェミニストだと思ってたけど、ちょっと違うかなあ…反省するよ。

みんながさあ、もっと頭をやわらかくして、一番いい方法を考えればいいんだよ。

家族なんだから、みんなで協力しながら介護できるといいね。

私も体と頭をやわらかくしておくよ。そうすれば元気で長生きできそう。やっぱり固くこりかたまっているのが一番いかな。

介護も二人三脚で…



山崎謙二さん・尚生さん

自営業をしながら、90歳になる母を介護(要介護5)されている山崎さんご夫妻。ともに助け合いながらの介護生活を伺ってみました。

※要介護5…最重度の介護が必要な状態

謙二さんのお話 介護の始まり

12年前、母の痴呆症が始まった頃は、私も仕事が忙しく、介護は全て妻ひとりに任せておりました。

介護のバトンタッチ

6~7年前、母が骨折し、ほとんど寝たきりの状態になってしまいました。妻だけでは手に負えなくなり私が手伝うようになりました。その後、年を重ねるごとに、自然に介護の中心が私に変わり、今おむつ交換や食事の世話等を私がしています。

仕事も介護も現役です

長く介護をしていると、一日の中で“介護の時間”が決まってきます。今、職場の人たちの理解を得てその時間は介護に専念させてもらっています。

現役で仕事をしながら、介護優先のライフスタイルができました。また、病気もしてられないので、施設のデイサービス・ショートステイ等のサービスを最大限に利用して、できるだけストレスを溜めないよう、健康には気をつけています。

お二人からのメッセージ

1. 男女に関係なく、自分にできることを、家族内でお互いに協力しあうのが、良いのではないのでしょうか。
2. 介護保険で受けられる介護サービス等をフルに活用することをお勧めします。
3. 世間も変わりつつあります。自分だけで抱えこまず、周囲の人たちにオープンにすることで、気持ちが楽になると思います。

訪問インタビュー



介護福祉士 奥山 修さん

特別養護老人ホーム「くわの実」では介護職の約3分の1が男性です。その中で入所者から「色の白いお兄ちゃん」と慕われている奥山さんに介護士としての感想を聞いてみました。

介護士になろうとした理由は？

今の時代を考え、資格がとれて人の役に立つ仕事に就きたいと思いました。時代は福祉に向けて動いており、その中でも老人介護に関心がありました。

男性ということで困ったことは？

特にありません。排泄や入浴介助も女性スタッフと同じように行っています。

これからやりたいことは？

介護は奥が深いので、向上心をもって取り組んでいます。また、将来はケアマネジャーの資格をとりたと思っています。

男性介護士を目指している方へのアドバイスは？

介護の仕事は自己の健康管理が大事です。特に男性は体力を過信しやすいので注意してほしい。そして、目配り、気配り、心配りが大切だと思います。

編集後記

「介護は女性の役割」と、思われてきたのは、
男なんてだろう、なんてだろう、
男性だって介護ができるはずなのに、
男なんてだろう、なんてだろう、
男なんてだろう、なんてだろう、

今回の取材で、この疑問は払拭されました。
前向きに賢く、そしてオープンに介護に取り
組まれている山崎さんご夫妻。
自然体で、ひたむきに介護福祉士として働いて
いる奥山さん。
固定的な観念にしばられず、柔軟な考え方を
一人ひとりが学んでいくならば、介護はこれか
ら変わっていくでしょう。

介護のみらいは明るいと思えました。

編集委員一同

みらい掲示板

女と男のフォーラム



「講談の世界で、初の女性真打ちとなった宝井琴桜が語る男女共同参画」

扇を叩きながらの軽快な話術をお楽しみください。

- 日時 6月28日(土) 午後2時～4時
- 会場 市民プラザ 2階 大会議室
- 講演 「男女共同参画ってなあに」
- 講師 講談師 宝井琴桜さん
- アトラクション
サクソフォン演奏 早川 貴さん
- 定員 200名
- 手話通訳・託児(3歳～未就学児)を希望により行います。お問い合わせください。

男女共同参画セミナー



羽生市初の女性市議会議員として9年間活躍された太田さん。女性議員としてのご苦労やさまざまな体験などを語っていただきます。

- 日時 7月13日(日) 午後2時～3時30分
- 会場 パープル羽生(羽生市女性センター)
- 講話 私の社会参画 ～この思いを届けるために～
- 講師 前市議会議員 太田ヒサ子さん
- 定員 30名
- フォーラム・セミナーの申し込み・問い合わせ
パープル羽生(女性センター) ☎561-1681